

WE WILL

株主の皆様へ

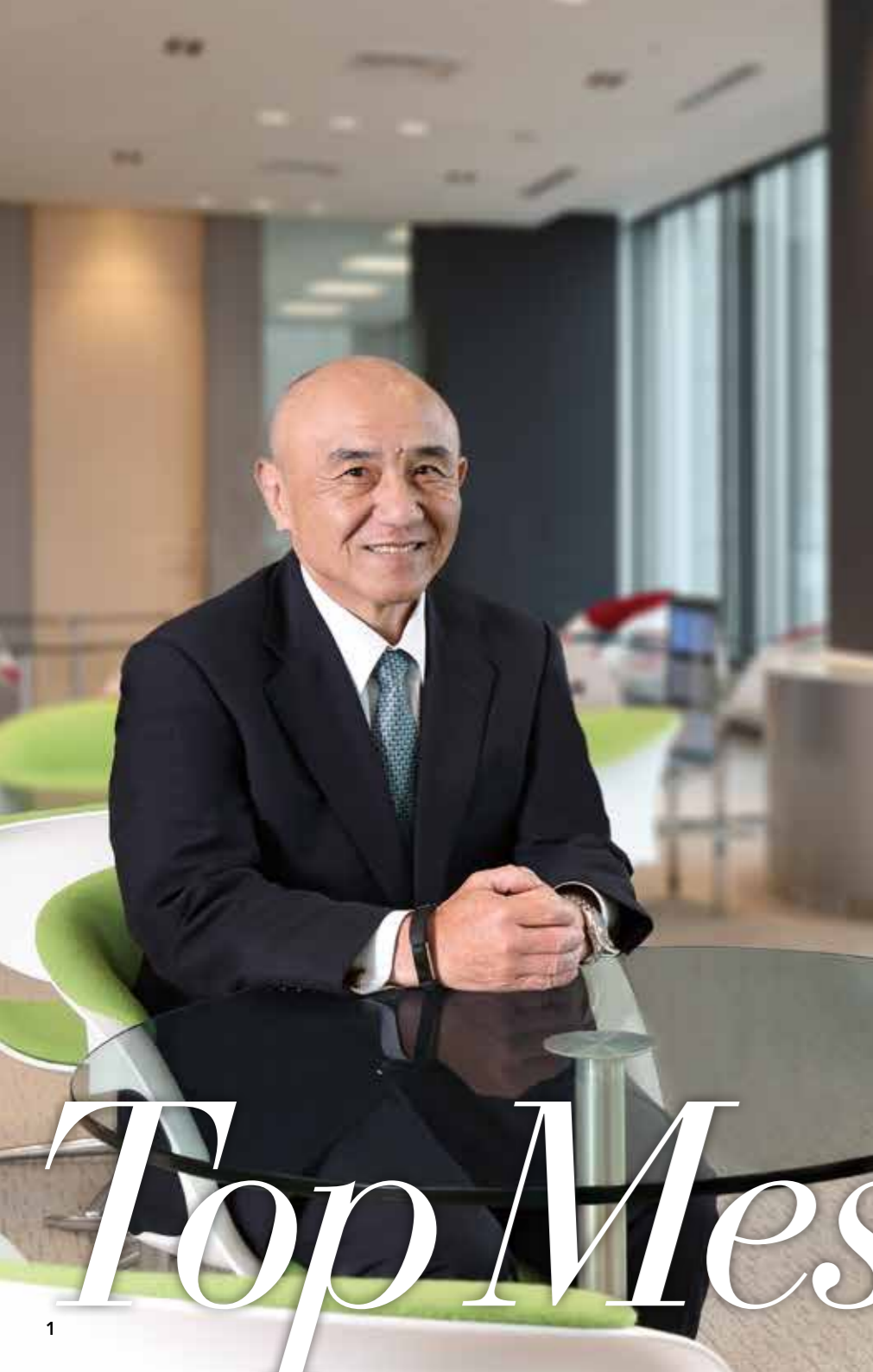
vol.02

証券コード4188

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

2017年4月1日 → 2018年3月31日

第13期 期末のご報告



□ 株主の皆様へ

KAITEKI経営を推進し 企業価値向上を図ってまいります

地球温暖化、水資源の偏在等の地球環境に対する課題はますます顕在化する一方で、科学技術の革新的な進化は、ビジネスに質的な変化をもたらした新たな市場が次々と生み出されています。

三菱ケミカルホールディングスグループは、イノベーションの力を結集し、人・社会・地球の持続的発展に貢献するソリューションの提供を通じて企業価値向上を図ってまいります。

2018年6月 代表執行役社長 越智 仁

社長インタビュー

Q: 当期の概要を教えてください。

A: 当期(2017年4月1日～2018年3月31日)は、世界経済が安定して成長を続け、様々な市場が拡大を続けたことを受け、幅広く市場に素材を提供する当社グループも収益を大きく伸ばすことができました。主に、MMAの大幅な市況の上昇や、米国や豪州で買収した産業ガス事業等が収益拡大に寄与しました。また、医薬品は米国における事業展開を順調に進め、ライフサイエンス事業ではMuse細胞の臨床試験を開始するなど、総じて良い1年だったと思います。当期の連結業績は、コア営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益のいずれも過去最高となり、期末配当金につきましては、前期に比べて5円増配し、1株につき17円とさせていただきます。

Q: 化学系3社統合により昨年4月に発足した、三菱ケミカル株についてはいかがでしょうか?

A: この1年で統合効果を実感しています。例えば、これまでは3社が個別に研究や製品開発を行っていましたが、統合により3社が有していたあらゆる経営資源(人、技術、情報等)が活用できるようになり、新しい技術に対するアプローチや理解のスピードが高まったことで、お客様により適切な提案ができるようになりました。また、米国、欧州、中国、アジア・パシフィックにリージョナルヘッドクォーター(地域統括会社)を

設立したことで、各地域におけるマーケティング機能が強化され、部門を超えた新たなビジネスの開拓も始まっています。今後は、和賀社長の下、事業ポートフォリオ改革や成長戦略の実行により、一層の統合効果を追求していきます。

Q: 今期の見通しはいかがでしょうか?

A: 今期(2018年4月1日～2019年3月31日)については、MMAの市況軟化や薬価改定等、業績の抑制要因となりうるものもありますが、好調な世界経済を背景に事業環境は堅調に推移すると見えています。中期経営計画「APTSIS 20」の最終年度(2020年度)におけるコア営業利益4,300億円を視野に、さらなる変革の実行と成長の獲得に向けた施策を実行していきます。また、事業基盤を強化するため、IT技術を活用し、業務の高度化、自動化、生産システムのさらなる効率化を実現し、次世代の業務システムを作り上げていきたいと考えています。

Q: KAITEKI健康経営について教えてください。

A: 2016年に「健康経営」をKAITEKI経営の一環として推進していくことを宣言し、昨年から「KAITEKI健康経営」として本格的に始動しました。KAITEKI健康経営は、健康支援と働き方改革を両輪として、健康という視点から「働く人」の活躍を最大化する

取り組みです。従来の働き方改革は、残業時間の削減等が中心でしたが、KAITEKI健康経営では視点を変え、健康面ややりがい等の働き方に関する事項も指数化し、ICTやIoTも活用した様々な取り組みを通じてその値を高めていくという活動も行っています。多様な人材がいきいきと活力高く働ける会社・職場づくりを通じて、豊かな創造性と高い生産性を築くことをめざしています。

Q: 最後に株主の皆様へメッセージをお願いします。

A: 三菱ケミカルホールディングスグループは、人・社会・地球が抱える課題に対して、グループのイノベーションの力を結集し、最適なソリューションを提供することで、その持続的な発展に貢献することをめざしています。今後も、株主の皆様のご期待にお応えするため、KAITEKI経営を推進し、企業価値向上を図ってまいります。

Top Message

グローバルネットワーク

三菱ケミカルホールディングスグループは、世界30以上の国や地域で、技術力を活かしてさまざまな課題解決に貢献し、人・社会・地球の持続的発展に貢献することをめざしています。KAITEKI実現に向けて、私たちのグループは世界に広がってゆきます。

世界に広がるKAITEKIな仲間たち



Mitsubishi Chemical Holdings Europe GmbH(ドイツ)



Quadrant AG(スイス)



Leeden National Oxygen Ltd. (シンガポール)



三菱ケミカル株鹿島事業所

■ヨーロッパ

- ▶ 情電・ディスプレイ(ドイツ、英国、イタリア)
- ▶ 高機能フィルム(ドイツ)
- ▶ 環境・生活ソリューション(イタリア)
- ▶ 高機能成形材料(ドイツ、英国、スイス、オランダ、ベルギー、フランス、ハンガリー、スロバキア、トルコ、ポーランド)
- ▶ 高機能ポリマー(フランス、ドイツ、ポーランド、ベルギー、オランダ)
- ▶ 新エネルギー(英国)
- ▶ MMA(英国、オランダ)
- ▶ 産業ガス(ベルギー)
- ▶ 医薬品(英国、ドイツ、イスラエル、フランス)
- ▶ ライフサイエンス(スペイン、ルーマニア、ベルギー)

Europe



天津田辺製薬有限公司(中国)



惠州惠善化成有限公司(中国)



(株)三菱ケミカルホールディングス

■日本

- ▶ 情電・ディスプレイ
- ▶ 高機能フィルム
- ▶ 環境・生活ソリューション
- ▶ 高機能成形材料
- ▶ 高機能ポリマー
- ▶ 高機能化学
- ▶ 新エネルギー
- ▶ MMA
- ▶ 石化
- ▶ 炭素
- ▶ 産業ガス
- ▶ 医薬品
- ▶ ライフサイエンス

Japan

Asia Pacific

■アジア・パシフィック

- ▶ 情電・ディスプレイ(中国、シンガポール、台湾、インドネシア、韓国、豪州、香港)
- ▶ 高機能フィルム(台湾)
- ▶ 環境・生活ソリューション(中国、台湾、豪州、ミャンマー)
- ▶ 高機能成形材料(中国、韓国、シンガポール、タイ、ベトナム、香港)
- ▶ 高機能ポリマー(中国、タイ、シンガポール)
- ▶ 高機能化学(インドネシア、中国)
- ▶ 新エネルギー(中国)
- ▶ MMA(中国、タイ、シンガポール、韓国、台湾、サウジアラビア)
- ▶ 石化(中国、インドネシア、韓国、インド、タイ)
- ▶ 産業ガス(中国、台湾、韓国、シンガポール、フィリピン、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、インド、ミャンマー、豪州、サウジアラビア)
- ▶ 医薬品(中国、台湾、インドネシア、韓国、シンガポール、タイ)



三菱化学(中国)管理有限公司(中国)



Mitsubishi Chemical Asia Pacific Pte Ltd. (シンガポール)

North America

■北米

- ▶ 情電・ディスプレイ(米国)
- ▶ 高機能フィルム(米国)
- ▶ 高機能成形材料(米国、カナダ)
- ▶ 高機能ポリマー(米国)
- ▶ 高機能化学(米国)
- ▶ 新エネルギー(米国)
- ▶ MMA(米国、カナダ)
- ▶ 石化(米国)
- ▶ 産業ガス(米国)
- ▶ 医薬品(米国、カナダ)
- ▶ ライフサイエンス(米国、カナダ)



Mitsubishi Polyester Film, Inc. (米国)



Qualicaps, Inc.(米国)



Matheson Tri-Gas, Inc.(米国)



Mitsubishi Chemical Holdings America, Inc.(米国)

Central-South America

■中南米

- ▶ 情電・ディスプレイ(メキシコ)
- ▶ 高機能成形材料(ブラジル、メキシコ)
- ▶ 高機能ポリマー(ブラジル)
- ▶ 石化(メキシコ)
- ▶ ライフサイエンス(ブラジル)



機能商品

情電・ディスプレイ

液晶ディスプレイの画像表示に欠かせない光学フィルムや、タッチパネルディスプレイの視認性を向上させる光学用透明粘着シートなど、ディスプレイの進化を支えています。



機能商品

高機能成形材料

エンジニアリングプラスチック素材のグローバルリーダーとして、産業機械、自動車、航空機、医療など幅広い分野でお客様の製品開発をフルサポートします。



機能商品

高機能化学

高分子設計、コーティング技術を基盤に、自動車用の塗料や、電子材料、ヘルスケアなどの分野にソリューションを提供しています。



素材

MMA

コスト優位性に優れた供給体制をグローバルに構築し、世界トップシェアを誇ります。アクリル樹脂成形材料やアクリル樹脂板など、自動車や家電、光学製品、看板など、幅広い分野に供給しています。



素材

産業ガス

独自のガステクノロジーを用い、鉄鋼、化学、エレクトロニクス、自動車、建設、造船、食品など幅広い分野に産業ガスを安定供給しています。



機能商品

高機能フィルム

バリア性、耐候性、透湿性、易開封性など、さまざまな「機能」を付加した製品が、食品包装をはじめ、医薬品包装、電子部品、自動車、建材など私たちの身近なところで使われています。

私たち三菱ケミカルホールディングスグループは 素材から製品まで様々なモノを扱う 総合化学会社です

三菱ケミカルホールディングスグループは、総合化学メーカーとして、素材から製品まで様々なモノを扱っています。身の回りの様々な製品づくりに使われる「機能商品」、石化、産業ガスなどの「素材」、医薬事業向け製品を扱う「ヘルスケア」の3分野で事業を展開し、あらゆる産業の基盤と世界中の人々の生活を支えています。



機能商品

環境・生活ソリューション

水処理用の薬品、ろ過膜、イオン交換樹脂といった材料の販売から装置の設計・販売、プロセス構築などを通じ、ユーザーニーズに応じた適切なソリューションを提供しています。



機能商品

高機能ポリマー

地球環境に配慮した植物由来ポリマーで、食品容器・包材などの分野で活躍。バイオエンブラは、耐衝撃性、耐熱性、耐候性、透明性に優れ、光学関連部材や自動車内外装などに使われています。



機能商品

新エネルギー

リチウムイオン電池の主要材料である電解液と負極材で、高度化するお客様のニーズに応え、電気自動車、プラグインハイブリッド車、ハイブリッド車の主要車種に搭載する電池に採用されています。



素材

炭素

コークスは国内外の鉄鋼産業を支え、コークス製造プロセスから生成するタールからもさまざまな製品が生み出されています。



素材

石化

三菱ケミカル(株)は鹿島と水島にエチレンプラントを有し、各誘導品プラント及びコンビナート内外のお客様に対して、さまざまな基礎石化製品を供給しています。



ヘルスケア

医薬品

筋萎縮性側索硬化症(ALS)治療薬の「ラジカヴァ」をはじめ、自己免疫疾患、糖尿病・腎疾患、中枢神経系疾患の薬剤など、特徴ある医療用医薬品で幅広い医療ニーズに対応しています。



ヘルスケア

ライフサイエンス

再生医療をはじめとした次世代医療や、高機能な製薬材料の提供、そして、人々の健康と医療をサポートするヘルスケアプラットフォームで、新たなヘルスケアソリューションを提供します。

KAITEKI ぴっくあっぷ Vol.02

株三菱ケミカルホールディングスが、人・社会・地球の持続的発展への貢献をめざして提唱している「KAITEKI」。「KAITEKI ぴっくあっぷ」と名付けたこのコーナーでは、KAITEKIのもとで推進しているさまざまな活動をご紹介します。

●DJSI Worldメンバーに選定

昨年、株三菱ケミカルホールディングスは、ESG(環境・社会・ガバナンス)投資指標で世界的に認知度の高いダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス(DJSI World)の構成銘柄に、初めて選定されました。また、スイスの格付機関ロベコサム社のサステナビリティ優良企業格付において、ブロンズクラス(銅賞)を受賞しました。

環境・社会課題解決への取り組みの進捗を指標化して事業活動と一体化させて取り組んでいること、健康経営やダイバーシティ推進など人材を競争力の源泉と位置付けた施策を推進していること、イノベーション創出の仕組みを工夫していること、世界の潮流に適応する各種ポリシーを策定していることや取締役会の整備に取り組んでいること、

統合報告書「KAITEKIレポート」を発行して情報開示に努めていることなどの実績が、世界基準の持続的成長力として高く評価されたものです。

引き続き三菱ケミカルホールディングスグループは、人・社会・地球のKAITEKI実現に貢献する多彩なソリューションの提供を通じて企業価値の向上を推進し、ステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。



TOPICS

トピックス

世界最大の生産能力を誇る新プラントの始動

三菱ケミカル(株)は、サウジ基礎産業公社と共同で進めていた、サウジアラビアにおけるMMAモノマー及びPMMAモノマーを主原料とするアクリル樹脂成形材料(PMMA)の生産について、昨年4月のプラント完成後、試運転を経て、本年4月から本格運転を開始しました。

この新プラントでは、強いコスト競争力を持つサウジアラビアのガス原料、ユーティリティ、インフラを最大限に活用し、エチレンからMMAモノマーを生産する当社グループ独自の技術「新エチレン法(アルファ法)」を用いることで、世界最大規模でMMAモノマー(年産25万トン)及びPMMA(年産4万トン)を生産します。これにより、アジアを中心に、ヨーロッパ、中東、アフリカなどのグローバル市場に安定供給する体制の最適化を図っていきます。



株)三菱ケミカルホールディングスは、「APTSIS 20」の達成に向け、さまざまな施策に取り組んでいます。ここでは、当社グループの当期の主なトピックスをご紹介します。

再生医療の未来を切り拓くMuse細胞

Muse細胞は、骨髄や皮膚(真皮)などの体内にもともと存在し、身体を構成するさまざまな細胞に分化できる幹細胞で、そのまま静脈内に点滴投与するだけで傷付いた臓器に集まり組織を修復します。このように点滴投与で身体への負担が少ないことに加え、腫瘍を形成する可能性が低いといった特長も有しています。

そのMuse細胞を用いた再生医療製品「CL2020」について、(株)生命科学インスティテュートは、本年1月、急性心筋梗塞を対象疾患とした探索的臨床試験を開始しました。

急性心筋梗塞を含む心疾患は日本人の死因の第2位であり、急性心筋梗塞はその約20%を占めるといわれています。特に心機能低下を呈する心筋梗塞では、心血管事故(心臓死・再梗塞・心不全)の発生率が顕著に増加すると報告されており、傷害を受けた心臓組織自体を修復し、心機能を改善する可能性のある「CL2020」は、心筋梗塞治療の新たな選択肢になると考えられ、この有効性と安全性が確認された後、急性心筋梗塞以外のさまざまな疾患を対象とした開発へと展開していく予定です。

革新的な医薬品の創薬へ

田辺三菱製薬(株)は、昨年10月にイスラエルの医薬品企業であるニューロゲーム社を買収し、完全子会社としました。

ニューロゲーム社は、パーキンソン病の治療薬に関し、新たな製剤研究や、優れた技術開発力を有しており、現在、2019年度に上市が見込まれるパーキンソン病治療薬「ND0612」を中心に開発を推進しています。

「ND0612」は、パーキンソン病の経口治療薬であるレボドパ及びカルビドパを世界で初めて液剤化したもので、それらを携帯ポンプにより24時間持続的に皮下注射することで、レボドパの血中濃度を一定にコントロールし、進行したパーキンソン病の患者さんの運動症状の改善を期待することができます。

このような神経疾患領域のパイプラインの拡充により、革新的な医薬品を創製することで、アンメット・メディカル・ニーズに応えていきます。



ICTを活用した従業員の健康サポート

三菱ケミカルホールディングスグループが推進している「KAITEKI健康経営」の一環として、ICTを活用した、当社独自の健康サポートシステム「i² Healthcare(アイツーヘルスケア)」がスタートしました。

このシステムでは、従業員の健康診断データや労働時間などの働き方データと、手首に装着したウェアラブルデバイスから取得した活動量(日々の歩数、消費カロリー、心拍数)や睡眠データ等を一元的に管理することで、従業員一人ひとりが自らの健康状態を日々確認することができます。

また、「i² Healthcare」に集積したデータを基に、これまでモニタリングすることが難しかった健康経営上の課題を把握することで、従業員や職場の生産性向上を図ることができるようになります。



第1回 マネジメント紹介

三菱ケミカルホールディングスグループの経営者層を様々な切り口で紹介し、株主の皆様に、当社グループをより知っていただくためのコーナーです。今回は、三菱ケミカル(株)の和賀昌之社長です。

三菱ケミカル(株)代表取締役社長
和賀 昌之(わが・まさゆき)

Q: 社長就任にあたり、まず頭に浮かんだことは?

A: 「安全・安定操業とコンプライアンス」です。お客様に高品質な製品を安定供給するという、素材メーカーとしての務めを果たすには、安全・安定操業は欠くことはできません。当社も過去に大きな火災事故を経験しており、その時の強烈な経験は私の原点となっています。また、コンプライアンスの遵守は企業として当然の使命です。

Q: 米国とシンガポールでの駐在も含め、国際経験が豊富ですが、企業がグローバル化するためのポイントは?

A: これまでは「日本人が海外の言語・文化・ビジネスを知る」という一方通行の国際化だったように思います。これからは、国外で勤務する外国人のグループ社員に日本について学んでもらう機会も設けて、双方向のグローバル化を進めていきます。

Q: 今までの会社生活で印象に残っている出来事や先輩の言葉は?

A: 国内営業を担当していた20代の頃、当時の上司に教わり、今でも心に残っている言葉に「仕事は全人格で勝負する」というものがあります。仕事は人格がすべて出てしまうので、人間性を高めない限り、浅い仕事しかできないということです。私自身、本当にそのとおりだと今でも思っています。

Q: 学生時代に打ち込んでいたものは?

A: 中学・高校はサッカー部のゴールキーパーとして、全国大会出場をめざし練習に明け暮れていました。

大学時代は、小・中学サッカー部のコーチを務められた。かわら、ウインドサーフィンを始めたところその魅力に取りつかれてしまい、足掛け10年以上競技を続けました。

Q: 座右の銘は?

A: 武者小路実篤の詩「もう一息」が好きです。人生の様々な局面を、この詩のように「まだできる」という思いで臨んできたように思います。

Q: 最後に、(株)三菱ケミカルホールディングスの株主の皆様へメッセージをお願いします。

A: 当社は伝統ある3社が統合し発足しましたが、三菱ケミカル(株)としては、誕生2年目の若い会社です。フレッシュな会社らしく、明るく、楽しく、元気に仕事をして、しっかりと収益をあげ、三菱ケミカルホールディングスグループの一員として、株主の皆様のご期待に応えてまいります。



連結業績の概要

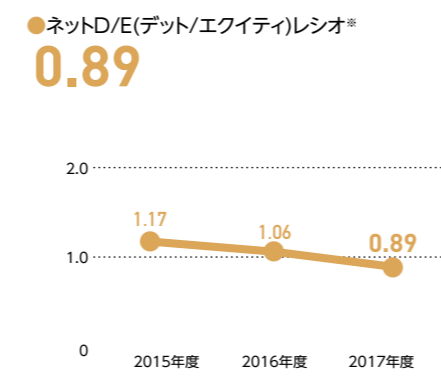
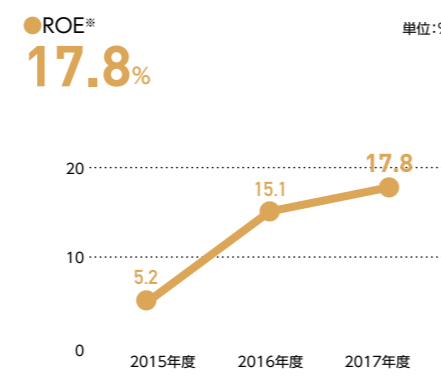
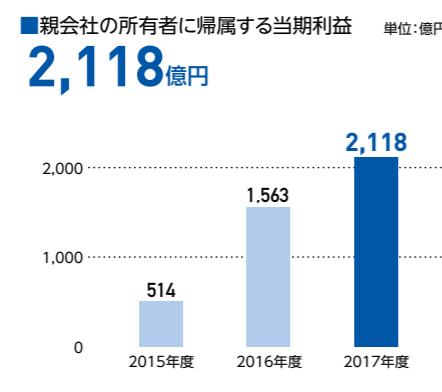
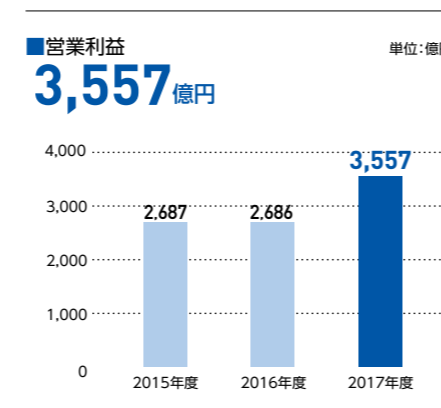
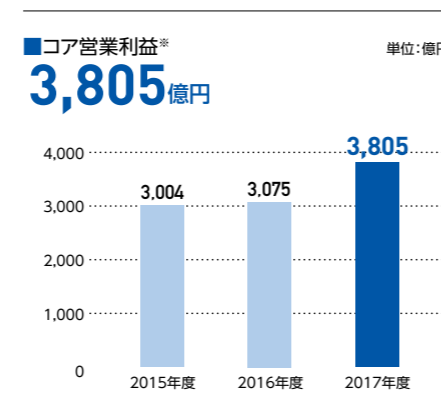
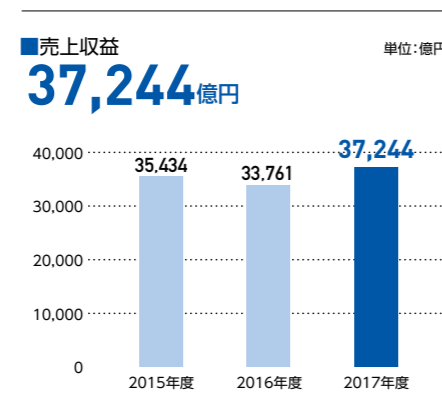
緩やかな景気回復が継続する中、
コア営業利益が3,805億円と過去最高となりました

販売が伸長する中、 概ね市況が好調に推移

当期は、総じて販売数量が伸長する中、概ね市況が好調に推移しました。当期の連結業績は、売上収益は3兆7,244億円(前期比3,483億円増)となり、利益面では、コア営業利益は3,805億円(同730億円増)、営業利益は3,557億円(同871億円増)となり、親会社の所有者に帰属する当期利益は2,118億円(同555億円増)となりました。

ネットD/Eレシオが0.17ポイント改善

資産合計は、棚卸資産の増加等により、4兆7,006億円(前期末比2,371億円増)となり、負債合計は、有利子負債の減少がありました。期末休日に伴う営業債務の増加等により、2兆7,811億円(同158億円増)となりました。また、資本合計は、親会社の所有者に帰属する当期利益2,118億円の計上により利益剰余金が増加したこと等により、1兆9,195億円(同2,213億円増)となりました。この結果、ROEは17.8%となり、ネットD/Eレシオは0.89となりました。



※ グラフは国際会計基準(IFRS)に準拠した用語で表示しております。
 ※ コア営業利益とは、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いた経常的な利益のことです。
 ※ ROE=親会社の所有者に帰属する当期利益÷親会社所有者帰属持分(期首期末平均)
 ※ ネットD/Eレシオ=(有利子負債(割引手形を含む)÷(現金・現金同等物+手元運用資金残高))÷親会社所有者帰属持分

連結財務諸表の概要(国際会計基準(IFRS)に準拠)

連結財政状態計算書 (単位:億円)

勘定科目	当期末	前期末	勘定科目	当期末	前期末
	[2018年3月31日現在]	[2017年3月31日現在]		[2018年3月31日現在]	[2017年3月31日現在]
(資産)			(負債)		
現金及び現金同等物	2,776	3,635	営業債務	4,886	4,379
営業債権	8,548	7,762	社債及び借入金	5,809	5,777
棚卸資産	6,077	5,318	その他	3,766	3,343
その他の金融資産	2,474	2,154	流動負債	14,461	13,499
その他	642	751	社債及び借入金	10,253	11,160
流動資産	20,517	19,684	その他	3,097	2,994
有形固定資産	14,335	14,317	非流動負債	13,350	14,154
のれん	3,234	3,130	負債合計	27,811	27,654
無形資産	3,552	2,272	(資本)		
その他の金融資産	2,445	2,529	資本金	500	500
その他	2,923	2,704	資本剰余金	3,211	3,217
非流動資産	26,489	24,952	自己株式	△436	△436
資産合計	47,006	44,635	利益剰余金	9,569	7,614
			その他の資本の構成要素	13	19
			親会社の所有者に帰属する持分合計	12,858	10,914
			非支配持分	6,337	6,068
			資本合計	19,195	16,982
			負債及び資本合計	47,006	44,635

連結持分変動計算書 当期[2017年4月1日から2018年3月31日まで] (単位:億円)

	親会社の所有者に帰属する持分					非支配持分	資本合計	
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素			
2017年4月1日残高	500	3,217	△436	7,614	19	10,914	6,068	16,982
当期利益				2,118		2,118	646	2,764
その他の包括利益					218	218	△7	211
当期包括利益				2,118	218	2,336	639	2,975
自己株式の変動			△1			△1		△1
配当				△389		△389	△409	△798
支配継続子会社に対する持分変動					△7	△7	39	32
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				214	△214	-		-
その他				12	△11	3	1	4
所有者との取引額等合計				△162	△225	△393	△369	△762
2018年3月31日残高	500	3,211	△436	9,569	13	12,858	6,337	19,195

連結損益計算書 (単位:億円)

勘定科目	当期	前期
	[2017年4月1日から2018年3月31日まで]	[2016年4月1日から2017年3月31日まで]
(継続事業)		
売上収益	37,244	33,761
売上原価	△26,043	△23,667
売上総利益	11,201	10,094
販売費・一般管理費	△7,643	△7,147
その他の営業収益	197	107
その他の営業費用	△464	△537
持分法による投資利益	266	170
営業利益	3,557	2,686
金融収益	84	72
金融費用	△200	△174
税引前利益	3,441	2,583
法人所得税	△677	△444
継続事業からの当期利益	2,764	2,139
(非継続事業)		
非継続事業からの当期利益	-	26
当期利益	2,764	2,165
当期利益の帰属		
親会社の所有者	2,118	1,563
非支配持分	646	603

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:億円)

勘定科目	当期	前期
	[2017年4月1日から2018年3月31日まで]	[2016年4月1日から2017年3月31日まで]
税引前利益	3,441	2,583
減価償却費	1,789	1,740
たな卸資産	△709	△92
営業債権債務他	△542	△265
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,979	3,966
有形・無形資産取得	△2,283	△2,058
投資・子会社株式取得	△5,246	△3,413
その他	4,170	2,580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,359	△2,891
有利子負債	△683	1,343
配当金他	△823	△1,329
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,506	14
現金・現金同等物に係る換算差額	8	△131
現金・現金同等物の増減額	△877	959
現金・現金同等物の期首残高	3,635	2,671
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	18	5
現金・現金同等物の期末残高	2,776	3,635

Point 1 資産合計

資産合計は、主に棚卸資産の増加及び期末休日の影響による営業債権の増加により増加しています。

Point 2 資本合計

資本合計は、主に当期利益の計上による利益剰余金の増加により増加しています。

Point 3 法人所得税

法人所得税は、米国連邦法人税率の引き下げによる影響がありましたが、税引前利益の増加等により増加しています。

Point 4 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、主にニューロゲーム社の連結子会社化により支出が増加しています。

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
 (英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
 本店所在地 〒100-8251
 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号(パレスビル)
 電話 03-6748-7200
 資本金 500億円

取締役 (2018年6月26日現在)

小林 喜光	取締役会長	橋川 武郎	社外取締役
越智 仁	取締役	伊藤 大義	社外取締役
小酒井健吉	取締役	渡邊 一弘	社外取締役
藤原 謙	取締役	國井 秀子	社外取締役
グレン・フレデリック	取締役	橋本 孝之	社外取締役
梅葉 芳弘	取締役		
浦田 尚男	取締役		

執行役 (2018年6月26日現在)

越智 仁	代表執行役	執行役社長
小酒井健吉	代表執行役	執行役副社長 (社長補佐)
池川 喜洋	執行役常務	(経営戦略部門)
ラー・マイクサー	執行役常務	(先端技術・事業開発室)
伊達 英文	執行役常務	最高財務責任者 (経営管理室、広報・IR室(IR))
藤原 謙	執行役常務	コンプライアンス推進統括執行役 (政策・渉外室、法務室、総務・人事室、内部統制推進室)
渡部 晴夫	執行役	(情報システム室、生産技術室、広報・IR室(広報))

株式の状況 (2018年3月31日現在)

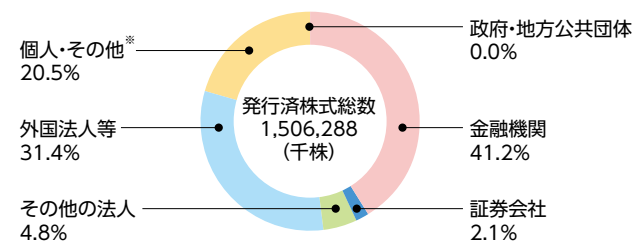
発行可能株式総数 6,000,000,000株
 発行済株式総数 1,506,288,107株
 株主総数 175,537名

大株主 (2018年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	96,148	6.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	75,626	5.3
明治安田生命保険相互会社	64,389	4.5
日本生命保険相互会社	42,509	3.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口4	36,803	2.6
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	28,941	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口5	26,808	1.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口7	22,462	1.6
東京海上日動火災保険株式会社	20,774	1.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	20,553	1.4

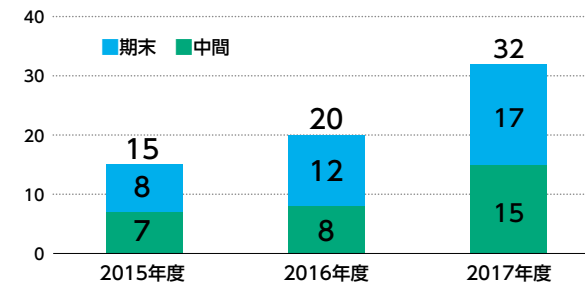
※ 上記のほか、当社が自己株式として66,902千株を保有しておりますが、上記出資比率は自己株式を控除して計算しております。
 ※ 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

所有者別株式分布の状況 (2018年3月31日現在)



※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(4.4%)が含まれております。

1株当たり配当金(円)



株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日
 - ① 定時株主総会 3月31日
 - ② 期末配当金 3月31日
 - ③ 中間配当金 9月30日
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
 ◎ 公告掲載URL
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付先及びお問い合わせ先
 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 0120-232-711 (通話料無料)



当社ホームページをご活用ください。

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/>

当社ホームページでは、プレスリリースや中期経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

三菱ケミカルホールディングス

検索



携帯電話やスマートフォンなどから、QRコードを読み取ってアクセスすることもできます。